

千葉市感染症発生動向調査情報

2016年 第52週 (12/21-12/27) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		52週	51週	50週	49週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数 「定点当たりの患者数」とは 報告患者数/報告定点数。	小児科	18	18	18	18
	眼科	4	5	5	5
	インフルエンザ*	27	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	12/21-12/27	12/14-12/20	12/7-12/13	11/30-12/6	12/14-12/20
			52週	51週	50週	49週	51週
小児科	RSウイルス感染症		16 0.89	19 1.06	19 1.06	14 0.78	120 0.90
	咽頭結膜熱		4 0.22	11 0.61	5 0.28	5 0.28	113 0.84
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		42 2.33	53 2.94	45 2.50	46 2.56	530 3.96
	感染性胃腸炎		217 12.06	233 12.94	225 12.50	186 10.33	1,371 10.23
	水痘		13 0.72	26 1.44	17 0.94	24 1.33	194 1.45
	手足口病		0 0.00	2 0.11	9 0.50	6 0.33	29 0.22
	伝染性紅斑	○	16 0.89	14 0.78	9 0.50	9 0.50	58 0.43
	突発性発しん		8 0.44	9 0.50	8 0.44	8 0.44	58 0.43
	百日咳		0 0.00	1 0.06	0 0.00	0 0.00	1 0.01
	ヘルパンギーナ		1 0.06	0 0.00	1 0.06	0 0.00	3 0.02
	流行性耳下腺炎		11 0.61	17 0.94	15 0.83	15 0.83	163 1.22
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		4 0.15	2 0.07	3 0.11	2 0.07	58 0.27
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	1 0.20	0 0.00	0 0.00	1 0.03
	流行性角結膜炎		2 0.50	4 0.80	2 0.40	2 0.40	38 1.12
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	無菌性髄膜炎		1 1.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	2 2.00	0 0.00	0 0.00	12 1.33
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	1 1.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ○:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(12件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	40歳代	病原体の検出	結核	男性	70歳代	画像診断等
結核	男性	40歳代	病原体の検出	結核	女性	50歳代	IGRA検査
結核	男性	50歳代	IGRA検査等	結核	女性	70歳代	IGRA検査
結核	男性	50歳代	IGRA検査等	後天性免疫不全症候群	男性	20歳代	血清抗体の検出
結核	男性	60歳代	病原体の検出	梅毒	男性	10歳未満	血清抗体の検出
結核	男性	70歳代	画像診断	梅毒	女性	20歳代	血清抗体の検出

・結核9件(231)、後天性免疫不全症候群1件(7)、梅毒2件(13)の報告があった。

※ ()内は2015年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

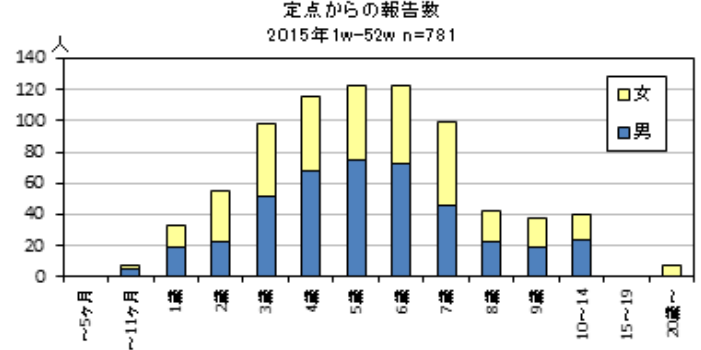
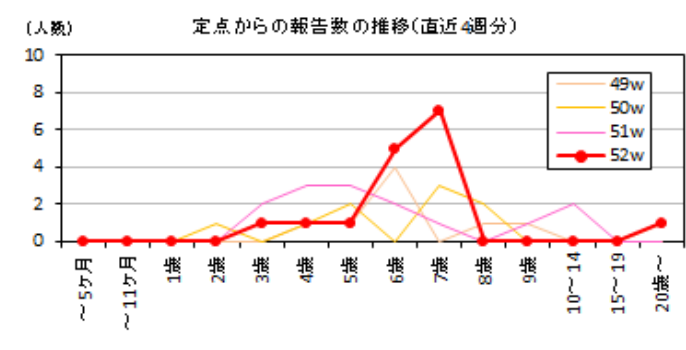
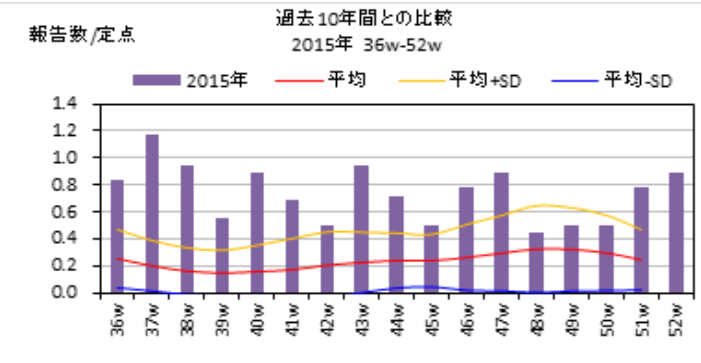
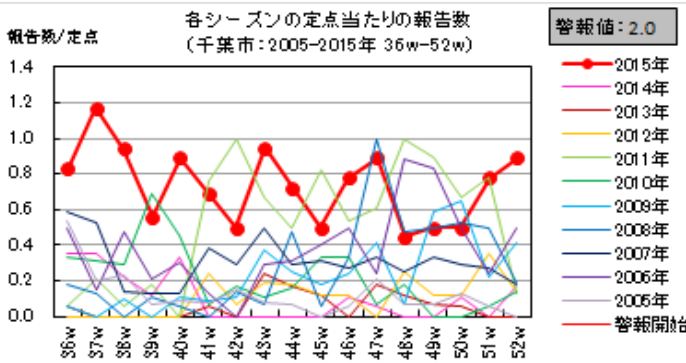
定点当たり報告数 第52週のコメント

<伝染性紅斑>前週から増加し0.89となった。過去10年の同時期と比べると最多。中央区で流行発生警報開始基準値を上回った。

■ トピック ■

＜伝染性紅斑＞

全国レベルは、第27週以来過去8年の同時期と比べると最多の状況で推移しており、第51週も同様となっています。第51週は都道府県別では、北海道、山形県、秋田県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルよりやや少なめとなっています。千葉市の2015年第52週は前週から増加し0.89となり、過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況は、中央区(2.67/定点)で流行発生警報開始基準値(2.0/定点)を上回り最多で、同区の6歳及び7歳で最も多く発生報告がありました。2015年第1週から第52週までの累積報告数(n=781)によると、性別では男性が54.5%(426名)、女性が45.5%(355名)で、年齢階級別では5歳及び6歳(共に15.7%:123名)、4歳(14.9%:116名)の順に多くとなっています。



＜梅毒＞

全国レベルの第51週現在は累計で2556名となり、過去8年の同時期と比べおよそ1.6~4.2倍で最多となっています。都道府県別では、東京都(1010名)、大阪府(303名)、神奈川県(155名)の順に多く報告されています。千葉県は70名で全国第7位となっています。千葉市の2015年第51週現在は累計で13名となり、過去10年と比べると平均+SDを上回り多くなっています。性別では男性が69.2%(9名)で女性が30.8%(4名)で、年齢階級別では20歳代(23.1%:3名)で最も多く、次いで10歳代、30歳代、40歳代及び50歳代(共に15.4%:2名)、10歳未満及び60歳代(共に7.7%:1名)の順となっています。症状は、無症状(46.2%:6名)、早期顕症梅毒(I期)(30.8%:4名)、早期顕症梅毒(II期)(15.4%:2名)、先天梅毒(7.7%:1名)の順で、感染経路は、異性間性的接触(53.8%:7名)、同性間性的接触(23.1%:3名)、性的接触・母子感染・不明(共に7.7%:1名)の順となっています。

